

## 授業改善プラン

地域名	葛南教育事務所	学校名	市川市立二俣小学校
-----	---------	-----	-----------

### 1. 課題 (これまでの全国学力・学習状況調査結果等から)

令和5年度の全国学力・学習状況調査においては、算数科全体で全国平均と比べて若干下回る結果となったが、県平均と同程度の結果であった。特に、A領域「数と計算」においては、県平均を上回り、全国平均と比べてもわずかに下回る結果となった。問題形式別に見ると、短答式や記述式の問題は県・全国をとともに上回る結果となっているが、式や図を読み取る選択式の問題は県・全国よりやや下回る結果となった。これは、自分の考えを表現し伝え合う活動において、式や図、具体物を使って説明することが習慣化されておらず、他者の考えを理解する力が十分に育成されていないことが一因だと考える。

### 2. 取組のポイント (仮説、改善方法等)

#### 研究主題「自分の考えを豊かに表現できる子の育成」～学び合いの活動を通して～

本校の研究仮説にある「既習事項や課題解決の見通しの確認 (導入の工夫)」や「自分の考えを表現する場と、互いの考えを深め合う場の工夫 (比較検討の場での工夫)」と実践モデルプログラム内「見いだす」「広げ深める」を関連付けて、年間を通して授業研究を進める。

### 3. 具体的な実践

#### ① 日常の事象から問題を見だし、解決の方法を考え、数学的な結果を得る。

第4学年の「小数のかけ算やわり算」では、「学校の2階の床から3階の床までの高さを求めるにはどうしたらよいだろうか」という学習問題を立て、2階から3階までにある階段の段数や、それぞれの階段1段分の長さを実測し、計算して求める活動を展開した。数学的に解決した結果を日常の場面に照らし合わせて振り返ることにより、数学的な結果が日常でどのような意味付けができるのかを児童に検討させる場を設定した。

#### ② 既習事項をまとめた掲示物をもとに学習問題を立て、学習の見通しをもつ。

令和5年度から実践モデルプログラム内の「見いだす」に焦点をあてた取組として、学習の軌跡がわかる既習の掲示物や児童のつぶやきをもとに、児童の言葉で学習問題を立てる展開を意識して授業実践を継続した。既習事項を振り返り、新たな疑問をもとに学習問題を立てることにより、児童たちの学びが主体的なものとなった。また、これらの掲示物によって、既習で用いた考え方をもとに学習の見通しをもつことができ、自力解決をする場においても有効であった。

### ③ 話し合い活動の進め方やグループの編成を工夫する。

比較検討の場においては、「小グループによる話し合い活動」→「クラス全体での共有」の流れのもとで進めており、小グループにおける話し合い活動が深まりのあるものとなるように、算数の習熟度や話し合い活動がスムーズに行えることを考慮した小グループを編成している。話し合い活動においては、①自分と友達との考え方の相違点に気を付けながら聞くこと、②友達と友達との考え方の相違点に気を付けながら聞くこと、③式や図、具体物を指し示したり、操作したりしながら説明することを意識させた。

## 4. 成果

・『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』の活用を通し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指してきたが、特に実践モデルプログラム内の「見いだす」に焦点をあてた取組では、児童の学習の軌跡がわかる掲示物を活用し、児童のつぶやきや疑問をもとに学習問題を立てることを習慣化することで、児童自ら疑問をもつようになるなど学びが主体的になった。また、「広げ深める」の取組では、比較検討にあたって、①「自分と友達との考え方の違い」「友達と他の友達との考え方の違い」に着目しながら話し合い活動を行うこと、②「小グループによる意見交流」→「クラス全体での意見交流」の流れを汲むことを意識した授業展開を、ふだんの授業においても実践することで、児童は考え方を共有するよさや楽しさを実感するとともに、学習への理解を深めていた。

・学習の振り返りを書く「算数日記」では、①わかったこと・できるようになったこと、②なるほどと思った友達の考え、③考えたけれど、わからなかったこと、④新たな疑問、⑤次の学習に生かしたいこと等、振り返りの視点を明らかにしながら取り組ませることで、前述の比較検討の場の工夫によって学習への理解を深めており、「算数日記」には「自分と違う考え方を知ることができた」や「新しく知った友達の考え方を活用したい」などと記述した児童の割合が増加していた。

### ◆担当指導主事から

実践モデルプログラムの「見いだす」では、児童の興味・関心が高まる日常の場面を提示し、既習の掲示物の活用をもとに学習問題を立てる展開を、年間を通じて行うことで児童の主体的な学びにつながっていた。また、学習の振り返り「算数日記」を継続して取り組むことで、自らの考えを他者と比較・共有することで、友達の表現した絵や図、式などを使った考えを活用して、課題解決したいという思いが高まっていた。研究主題にある「自分の思いを豊かに表現できる子」の育成につながる実践が行われており、更なる研究の深まりを期待したい。